

# 地震一口メモ No. 165

## 「ゆっくりすべり」とは②

～南海トラフ地震に関連する情報（定例）～

地震とは、地下の岩盤に蓄積されたひずみを、断層のすべり運動により解放する現象です。

通常の地震では、断層が高速ですべり、地震波を放射します。一方、ゆっくりすべりは、ゆっくりと断層が動いて地震波を放射せずにひずみを解放する現象です。「スロースリップ」とも呼ばれ、ひずみ計、傾斜計、GNSS<sup>※1</sup>観測などで検出されています。

ゆっくりすべりは日本で稠密な観測網が整備された2000年代初頭から検出されるようになりました。その後、日本だけでなく、世界中のプレート境界においても、ゆっくりすべりの検出が相次ぎました。

※1 GNSSとはGPSをはじめとする衛星測位（上空から電波を放射し、位置を正確に測定する）システム全般をしめす呼称。

気象庁は、南海トラフ地震に関連する情報（定例）を毎月発表しており、関連する報道発表資料の中では、下図に示したように、南海トラフ領域のゆっくりすべりの状況について掲載しています。また、短期的ゆっくりすべりが発生している時には、プレート境界の深さ30～40km付近で、通常地震より周期の長い低周波地震（微動）が多く観測されることも明らかになっています。この低周波地震（微動）は、火山性の低周波地震と区別して「深部低周波地震（微動）」とよばれています。なお、深部低周波地震（微動）の規模は小さく、この地震の揺れを体を感じるようなことはありません。

今回の一口メモの内容は地震調査研究推進本部のHP (<https://www.jishin.go.jp/resource/terms/>)を参考に作成しました。

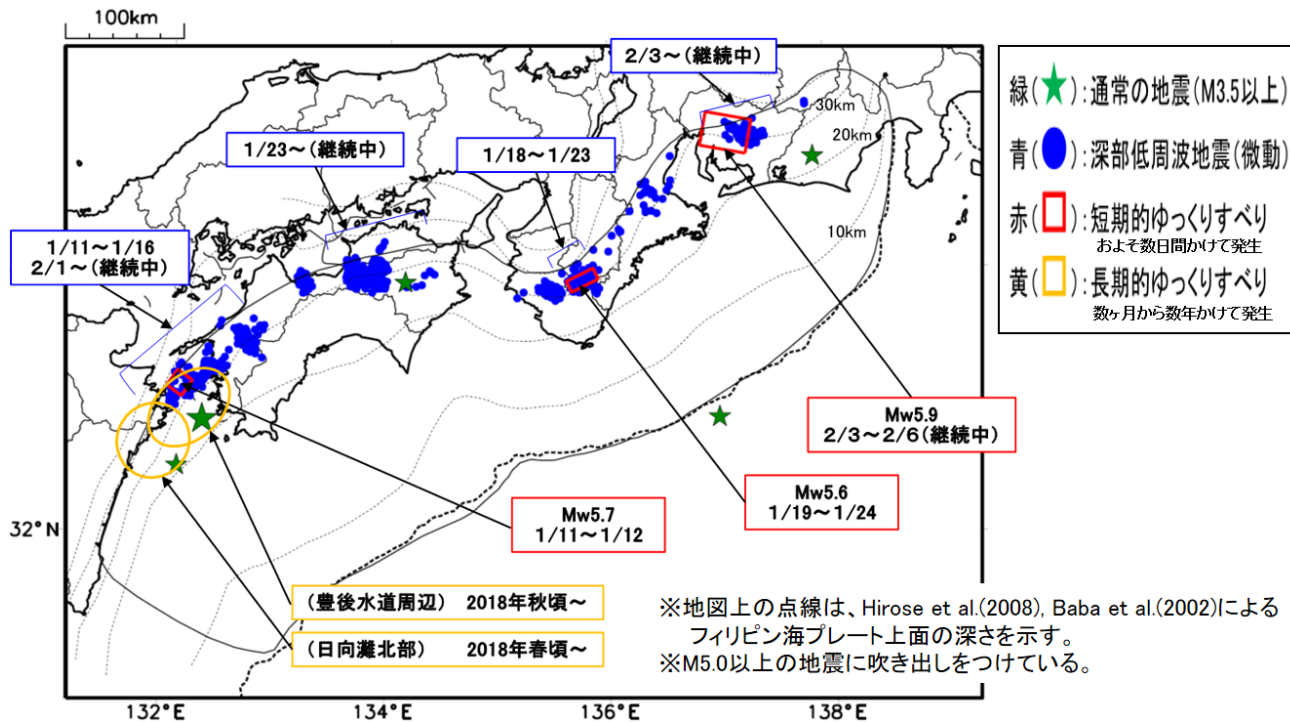


図 最近の南海トラフ周辺の地殻活動（2019年1月1日～2月6日）  
南海トラフ地震に関連する情報（定例）2019年2月7日発表の報道発表資料より  
[http://www.jma.go.jp/jma/press/1902/07b/mate01\\_1.pdf](http://www.jma.go.jp/jma/press/1902/07b/mate01_1.pdf)